STUDIO-D JAPAN

製作・監督・脚本

佐 野 伸 寿

１９７１年７月子役として映画人生のスタートを切る。
子役としての代表作
１９９６年、独立間もないカザフスタン共和国で「ラストホリデー」を製作。同作品が東京国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭で東京ゴールド賞、タイガーアワード賞を受賞。映画制作の現場に復帰。以後カザフスタンで４作品を製作。いずれも海外の映画祭で高く評価される。
２０００年東京国際映画祭クリエーターズフォーラムに脚本処女作『ある日、アメリカが戦争を始めて』を日本カザフ共同製作３部作として出品し、奨励賞を受賞。

フィルモグラフィ

プロデュース作品
「ラストホリデー」１９９６年製作
東京国際映画祭 東京ゴールド賞＆都知事賞
ロッテルダム国際映画祭 タイガーアワード賞
「アクスアット」　１９９８年製作
ベルリン国際映画祭公式招待作品
ナント三大陸国際映画祭 審査員特別賞
「三人兄弟」　２０００年
トリノ国際映画祭 審査員特別賞
東京国際映画祭　ベストアジアフィルム賞
「歌って」　２００２年
キノショック国際映画祭 監督賞
製作・脚本・監督作品
「ウイグルから来た少年」２００８年製作
モントリオール国際映画祭公式招待作品
「春、一番最初に降る雨」２０１１年製作
ユーラシア国際映画祭　グランプリ（最優秀作品賞）